

第6期第4回あま市まちづくり委員会会議録要旨

と き 令和5年1月18日（水）
午後3時00分～午後4時30分
ところ あま市役所 本庁舎
2階 大ホール

1. 出席者等

委 員	14名
事務局	7名
傍聴人	0名

2. 委員長あいさつ

- ・あま市をどんなまちにできたらいいかというビジョンや委員の思う理想を共有し、具体的にどのような提案をしていくかが見えてくるとよい。
- ・忌憚なく、楽しく語り合えればと思う。

3. 議題

「協働を通して実現したいあま市の姿について」

○委員長

- ・書面会議で出た「協働を通して実現したいあま市の姿」に対する意見をまとめた。
- ・補足したいことがある方は、どうぞ。

○委員

- ・この委員会に参加している方のポジション、取り組んでいることは多岐にわたるので、それを一つにまとめるのは難しい。
- ・あま市の総合計画審議会に参加していたが、市民アンケートを通じて、今、まちに対してどういったことに満足していて、どういったことに不満があるのか、どういったところに力を入れて欲しいとかという結果があった。
- ・市民の方々の関心が高い、かつ、効果が高いものが細分化されて表になっていた。
- ・例えば、防災や防犯などの意識が高いものをピックアップしてやっていると思う。
- ・そのエキスパートの人たち、団体の人たちがやっていることを、協働の場で広げて、更にスケールアップし、やれることをやればいいと思っている。
- ・例えば、あまつりに合わせて実施するのもありかと思う。
- ・1回で終わるのではなく継続していけるようなものにする。
- ・そのきっかけになればいいと思う。

○委員長

- ・テーマとして、市民アンケートのデータを活用可能か。

○事務局

- ・資料として、使うことは問題ない。
- ※アンケート内容の説明。

○委員

- ・やるからには、市も取り組むべき内容であり、かつ市民の人たちも関心度が高いも

のをやれば、一般の市民の人たちも一緒になって協働の形ができるのかなと思っている。

- ・例えば、防犯に関することを警察署や様々な団体を巻き込んで、やっていたりする。
- ・学校とタイアップもして、もっと市民団体へ広げて、地域コミュニティまで落とし込めるといい。
- ・犯罪のない地域は、非常に魅力のある地域なのかなと思う。

○委員

- ・あま市は知名度が低いとテレビでやっていた。
- ・交通機関の整備や商業施設の誘致も考えて欲しい。

○委員長

- ・愛知県の中で、行ったことがないまちランキングで10番目だった。

○委員

- ・大治は割と知られている。

○委員

- ・基本的にイベント関係をやりたい。
- ・今までの経験上、協働＝まち起こしという感覚がある。
- ・皆さんと違うかもしれないけど、ゼロベースから考えてもいいと思う。
- ・労働量がみんな一緒にならないと、意味がないと思う。
- ・労力もイーブン、時間もイーブン、そういった感覚でやっていかないと、長続きも実現もしない。
- ・あま市を知ってもらえるような活動をしたい。

○委員

- ・あま市の人たちが喜ぶことも、いいことだと思うが、市外の人たちに来てもらえるように、甚目寺観音、アートヴィレッジなど、あま市の素晴らしいものを、もっと外部発信していった方が良くと思う。

○委員

- ・市民に対してのアピールが少ないと思った。

○委員長

- ・「ボランティアやっていると大きな声で言うのが若干恥ずかしい。」という意見があり、すごくもったいないと思っている。
- ・まちのためとか、誰かのためになる活動を、楽しめる地域になるといいと思っている。
- ・ボランティアが堅苦しいイメージじゃなくて、もっとたくさんチャンスがあって、興味のあるところにふらっと足運べるようなまちになるといい。
- ・委員のやっている様々な活動が繋がるだけで、できるんじゃないかなと思う。
- ・協働というものに対して、堅苦しく勉強するんじゃなくて、自然体に理解を促進していけるような地域づくりのきっかけをまちづくり委員会で考えられないか。
- ・共通した仕掛けとかギミックとか、そういうものをこれから提案していきたい。

○委員

- ・自分の活動の中であま市というキーワードを出しているが、もっとみんなに知って欲しい。
- ・SNSで発信しつつ、そこを入り口にして、まちづくりに関わっていけるような形になっていくといい。
- ・地球環境に関することなど、海外の若い子たちが叫んでいることも含めてほしい。

○委員

- ・甚目寺観音や蜂須賀小六、福島正則をアピールするとか。

○委員

- ・人に喜んでもらえることを楽しみにできるまちは、本当すばらしい理念だと思う。
- ・人と人が助け合えるまちづくりをするための一つのシステムとしてボランティアポイント制度を提案した。
- ・定年である65歳というのは、体力もあるし、元気な方がいっぱいいるので、そういう方をこれから活かしていけると、まち全体が活性化してくる。
- ・自分もいずれ動けなくなった時に人の手を借りたくなる。今度は恩を受ける側にまわるような、そういう世代を超えた助け合いのシステムができるといい。
- ・提案の二つ目は、学校の図書室を、夏休み、冬休みや土日だけでも、地域に開放できるようにするといい。
- ・三つ目の提案は、貧しい子が勉強できるような環境が、どんどん失われてきているので、子供食堂の寺子屋版が地域でできるといいと思う。

○委員

- ・何か目標を持ってやっていると、自分の喜びになる。
- ・失敗は成功のもとで、何もしないよりまずやってみて、結果に繋がるといい。
- ・行政とともに歩んで、明るいあま市、犯罪のないあま市にしたい。

○委員

- ・一つ目が、あま市に住んでいる人たちがあま市にもっと興味を持って、あま市を良くしようと思うことがまず欠けていると私は思う。
- ・あま市を外で知ってもらうよりも、まず住民があま市を知る、理解するってことがすごく大事なかなと思う。
- ・二つ目は、特徴がない中で住民がもっと、何かできることってないのかなっていう気持ちになることがすごく大事じゃないかなと思う。
- ・三つ目が、K P I というか、その目標をちゃんと明確にするということがすごく大事だと思う。
- ・従来型の組織をうまく活用しながら、足りないところを補っていくってことが、市民活動団体として必要ではないか。

○委員

- ・実現したいあま市の姿は、ここにずっといたい、住んでいたい、骨を埋めたいなというまちなのかなと思う。
- ・仲間がいて、安心して安全なまちが私の中のいいまち。
- ・真横の繋がりを作ることが結構重要で、受け手ではなく参加者になるっていうスタイルが自分の中では結構重要です。

- ・例えば、テーブルぐらい大きな鉄板を用意して、みんなでチャーハンなど、大きな何かを作ると話題にはなるのかなと思いました。
- ・自分たち以外の市民活動団体の様子を聞き、仲良くなり、そしてみんなであま市を作る。
- ・共通の何かがあり、一つになるイベントが何より大事。

○委員

- ・どうやったら、ほかの地域の人たちにあま市の魅力を知ってもらえるかということを考え出していくことが大事。
- ・文化とか歴史など、あま市の特徴を出した取り組みに対して、協働の取り組みは何かできないか。

○委員

- ・生徒が大人になって帰ってきた時、またそこでみんな会える、或いは、地元の人がみんな寄り会えるっていうことで、すごく楽しみにしている。
- ・初観音、節分、いろんなお祭りがある。
- ・何か一つのシンボル、モニュメントを作るにあたって、それぞれの学校で部品みたいなのを作って一体化させてものを作るとか。
- ・
- ・企画立案の段階から、何か中学生、或いは小学生も交えて、その場に行けなくても提案するとかボランティアで子供を動かすことも可能。

○委員

- ・高齢者の方が、毎日のように行けるところを作ってあげることが毎日の楽しみ。
- ・小学生とか中学生とのコラボできるような機会があるといい。

○委員長

- ・提案にしたほうがいいのか、それともやりながらいいのか。

○事務局

- ・2年間の最後の委員会のタイミングで、市長に対して提案・提言になる。
- ・プラン、事業計画書みたいなものになるイメージです。

○委員長

- ・予算が伴わないものであれば、市のイベントで実践は可能か。

○事務局

- ・調整が取れば、可能です。

○委員長

- ・段取り踏みながら、アイデアの中でも間に合うものに関しては、プロトタイプ的にやってみて、それを提言加える。
- ・どこがゴールだといいか。

○委員

- ・事業を100とした時に、その10%を新しい事業として、まちづくり委員会で提案し

たものを具体的にやってみる。

- ・スペースだけ用意していただき、内容は事前に提示しますという形であればできますか。

○事務局

- ・そういった内容を実行委員会に提案するってことはできる。
- ・ある程度やりたいことを示さないと、令和5年度事業の中では難しい。

○委員長

- ・話し合いのスピード感にもよる部分がある。
- ・委員会として、来年度が終わったら、提言書で提言することが、この委員会のゴールになる。
- ・あくまでも協働のまちづくりを促進するために、やった方がいいという市民委員からの意見の提案ということ。

○委員長

- ・イベントといえば、市民活動祭もある。

○委員

- ・まちづくり委員は2年間で、話し合っている間は何もしていないような状態になる。

○委員長

- ・そういう意味でもスピード感が大事。

○事務局

- ・提言した後は提言した人は関わらずに、新しい委員さんが関わっていくと思う。
- ・一つの方法として、提言する前にお試してみたいな形で、まつりや市民協働としてのブースを立ち上げてやってみたらどうかと。
- ・その結果が好評であれば、提言には盛り込むというような形でもよい。

○委員長

- ・この枠の中で考えずに、逆に言えば実行していく段階ではもっといろんな人を巻き込んでやっていくこともある。
- ・色々な発想をすることが大事だと思いました。
- ・具体的な事業アイデアみたいなものを幾つも出し、可能性を示しつつ、実行できるものは実行していくみたいなことができたらいいい。
- ・こうなったらいいというポジティブな視点で、アイデア出し合いたいので、次回以降も、よろしくお願いします。

○事務局

- ・次回は2月9日木曜日、午後3時から。
- ・場所は美和総合福祉センターすみれの里を予定している。